

ヒト胃がん細胞株TMK-1に対する腹腔誘導マクロファージの細胞傷害活性の検討

溝淵 俊二¹、谷脇 千穂^{1,2}、渡部 嘉哉¹、笹栗 志朗³

高知大学医学部臨床看護学¹、(株)ソフィ研究開発部²、高知大学外科学講座外科^{2,3}

【はじめに】がん病巣周辺に、M1マクロファージ(M₁) (炎症性マクロファージ) が集積すると予後
が良く、M2M₂ が集積すると血管新生が起こり病態は増悪する報告がされている。我々はこれま
で、黒酵母由来の水溶性 α -1,3-1,6グルカン(ソフィ α -グルカン(Glu.))の経口投与で、マウス腹
腔内M1M₁ が活性化することを報告してきた。今回はさらに発展させ、Glu.投与で活性化させた
M1M₁ を積極的に用いた腹膜播種治療研究の第一段階として、試験管内でヒト胃がん細胞株
TMK-1を標的細胞とした細胞傷害活性の検討を行った。【方法】Glu.群はマウスに5% (V/V) Glu.
を自由給水させ、コントロール(Cont.)群には水を投与した。Glu.投与2週間後に2ml/匹のチオグリ
コレート培地を腹腔内に投与し、M₁ の誘導を行った。得られたM₁ を機能細胞とし、TMK-1を標
的細胞として⁵¹Cr放出試験で細胞傷害活性を測定した。【結果】細胞傷害活性は、Cont.で検出限
界以下であったのに対し、Glu.群では24.76%で明らかな高値を示した。【考察】Glu.の経口投与に
よりマウス腹腔内M₁ が活性化し、その結果、細胞傷害性が誘導された。現在、抗がん剤とGlu.と
を併用した試験も行っている。さらに、試験管内実験からマウス生体レベルへ系の発展を計画して
おり、その結果も併せて報告する。